各種連盟

- 北海道社会人サッカー連盟
- 北海道学生サッカー連盟
- 北海道自治体職員サッカー連盟
- 北海道自衛隊サッカー連盟
- 北海道クラブユースサッカー連盟
- （一社）北海道フットサル連盟
- 北海道チャレンジドサッカー連盟
- 北海道ビーチサッカー連盟

【北海道社会人サッカー連盟】

より良いサッカー環境を目指して

北海道社会人サッカー連盟　理事長　大橋　穣

平素より本連盟の活動に際し格別のご高配を賜り御礼申し上げます。

すでに報道等でご存じの方も多いかと思いますが、日本の最上位に位置するＪリーグの開催実施期間が、2026-27シーズンより、現行の２月開幕で１２月閉幕から、８月に開幕し、１２月から翌年２月までのウインターブレーク期間を挟み５月閉幕とする欧州に合わせた形のシーズンに移行することとなります。欧州と期間を合わせる事により、海外への移籍が容易になるなどのメリットが考えられます。日本のサッカーにとっては良い事ですが、北海道などの降雪地域にとっては数々のデメリットが考えられます。現在、道リーグには、Ｊを目指して活動しているチームがあります。J への昇格には、まずは JFL に昇格することが必要であり、JFL を勝ち抜いてようやく J3 昇格となるのが現行のシステムです。ここで問題となるのは、上位リーグであるＪが秋冬シーズンに移行すると、入替戦の関係から、下位リーグもシーズンを合わせる必要が生じてきます。そうなると、積雪地域でも冬にリーグ戦を行わなければとなりますが、実際にはグランドが使えないため試合ができないのが現実です。ドームのような屋根付きのグランドが使用できれば可能ですが、費用の事を考えると現実的ではなく、外のグランドで試合ができる期間でやりくりしたとしても、入替戦までの間に数か月のブランクが生じてしまうことになり、対応に四苦八苦しているのが現状です。

北海道においても、現在のブロックリーグの編成見直しに向けて協議が始まるなど、社会人サッカーを取り巻く環境は、変換の移行期にあります。道内各地でサッカーをする社会人の方々が、よりよい環境の中でサッカーに取り組めるよう、連盟役員で頑張っていきたいと思っておりますが、関係の皆様方におかれましても、これまでと同様にお力添えをいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【北海道学生サッカー連盟】

学生サッカー界の変革

北海道学生サッカー連盟　理事長　濱谷　弘志

昨年度、大学サッカー界では大きな変革がありました。冬に行われていたインカレ（全国大会）が、それまでのトーナメント方式から、本選出場のためのプレーオフ、プレーオフ勝者とシード校の計 4 校の総当たりによるグループステージ、その後、グループステージ上位チームによる決勝トーナメントという3ステージ制となりました。昨年度の北海道代表校である札幌大学は、残念ながらプレーオフ敗退のため、インカレ本線の出場は逃しました。今後もこのUEFA チャンピオンズリーグ方式が継続されるため、北海道代表校は、まずプレーオフに勝利して本選に臨むことが第 1 の目標となります。それに対して、夏に行われる全国大会である総理大臣杯は出場校が増え、北海道からは毎年 2 校が出場権を得ています。また、出場全校が 1 回戦から試合を行い、シード校が無くなりました。こちらは、運も味方すればベスト 8、4も狙うことが可能となりました。

全国大会で北海道代表校が良い成績を上げるために、北海道学連として代表校のレベルアップを目指すことが一つの目標です。それと同時に 3 部、2 部所属チームの底上げがもう一つの目標と考えています。そのためにここ数年は、どうすることが強化につながるのかを模索して、リーグ編成や試合数などを決定してきました。また、釧路から函館に至る広大な北海道に散らばる各大学が対戦するため、試合会場をどこにするのかも大きな課題であり、苦労をしている点です。

最後となりますが、今年は連盟設立 50 周年という節目の年となります。設立に携わった先人や、永年連盟の運営に携わった方々に感謝をするため、イベントを計画しているところです。また、ここまで歩んでこられたのは地区協会をはじめ、多くの方のご協力があってのことであることは間違いありません。改めて感謝を述べるとともに、今後も変わらぬご協力のほどよろしくお願い致します。

【北海道自治体職員サッカー連盟】

現状と課題

北海道自治体職員サッカー連盟　理事長　八木　康年

昨年度の全道自治体職員サッカー選手権大会は、6 月に旭川市で開催されました。結果は、優勝が函館市役所、準優勝が釧路市役所、3 位が札幌市役所、4 位が室蘭市役所でした。この上位 4 自治体は、7 月に静岡県藤枝市で開催された全国大会に北海道代表として出場しました。全道自治体職員フットサル大会については、11 月に名寄市で北ブロック大会が、3 月に岩見沢市で南ブロック大会が開催され、名寄市役所が両大会で優勝しました。

今年度の全道自治体職員サッカー選手権大会は、6 月 14 日から 3 日間、釧路市で開催されます。全国大会は、7 月 26 日から 5 日間、沖縄県那覇市で全国から 32 チームが集まり開催される予定です。フットサル大会については、北ブロックが 11 月 1 日から 2 日間中標津町で、南ブロックが 2026 年 1 月 24 日から 2 日間札幌市で開催される予定です。

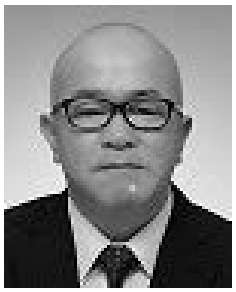
当連盟では、コロナ禍以降の加盟登録チーム数の減少と、昨今の気温上昇による全国大会の開催地選定が課題となっています。登録チーム数を増やすためには、より参加しやすい事業への見直しが急務であります。また全国連盟からは、本州に比べて冷涼な北海道での全国大会開催が要望されていますが、大会期間が長く、審判員や運営スタッフの確保が難しくなっている現状では、大会規模の見直しを行わなければ 1 地区での大会受け入れは難しいと考えております。

私たちはこれからも、サッカーとフットサルが持つそれぞれの魅力を最大限に引き出し、より多くの社会人がこれらのスポーツに触れ、楽しむことができる事業運営を目指してまいります。

今後も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【北海道自衛隊サッカー連盟】

全国大会に思うこと



北海道自衛隊サッカー連盟　理事長　小澤　義則

２０２４年度全道自衛隊サッカー大会は８月１０日（土）～１１日（日）千歳市青葉公園サッカー場にて開催されました。参加チームは昨年と同じく4チームの参加トーナメント戦で行われ千歳基地チームが 27 回目の優勝を飾りました。今年については全国出場2チーム派遣となり千歳基地と東千歳チームが参加しました。両チームとも健闘しましたが予選敗退となり残念な結果となりました。大会は優勝回数 17 回と自衛隊最強のチーム厚木マーカス（海上自衛隊）が今大会も優勝しました。自衛隊サッカーの頂点にいるチームと戦えたことが我チームは勿論、北海道の自衛隊サッカーチームにとってもいい経験になったと思います。（千歳基地監督談）大会を振り返り思うことは北海道チームに足りない部分は冬季間のグランドの確保及び試合数の制限等があり年間通しての試合ができてない状況です。所属する地区のリーグも試合数も少なく、登録チーム数の減少にも問題があると思います。やはり数多くの試合をやることで得るものがたくさんあり、今後の課題でもありますが北海道に所属するチームの交流戦等の開催を実施して各チームレベルアップは勿論のこと北海道チーム全体の底上げにつなげられるようより高い目標達成を目指し、全国大会で上位の成績を残せることを期待します。

【北海道クラブユースサッカー連盟】

北海道クラブユースサッカー連盟の現状と今後の展望

北海道クラブユースサッカー連盟　理事長　大年　貴之

北海道クラブユースサッカー連盟は、日本サッカー協会、日本クラブユース連盟に帰属するU-18・U-15カテゴリーのクラブを取りまとめている連盟です。

クラブユース連盟が発足し、31 年が経ちました。チーム数も U18・U15・女子含め61チームが全道各地で地域の選手達に指導を行っております。

現状として、クラブユース連盟は各年代のフェスティバルやクラブ選手権大会を毎年開催しており、一定の競技レベルと運営体制が確立されています。道内のクラブから道外の J リーグの下部組織や高校サッカー強豪校へと進む選手も増加しており、育成面での成果も出始めていると思います。

また、昨年度から U15 クラブ選手権大会全国大会を北海道サッカー協会と北海道クラブユースサッカー連盟が主管となり開催しております。U15 年代のトップレベルの選手・チームを間近で体感できる機会ですので、他の種別の選手・指導者の方々にも観戦して頂き北海道のレベルアップに繋がればと思います。

今後の展望として、通年を通した安定的な活動が望まれる中、冬季のトレーニング環境を改善するためのインドア施設整備やJクラブとの連携強化と通じたパスウェイの明確化も重要になってきます。

北海道クラブユースサッカー連盟は、地域の特性と課題を的確に捉えつつ、持続可能な育成体制の構築を通じて、北海道全体のサッカーレベル向上に貢献する存在として取り組んで行きたいと思います。

【北海道フットサル連盟】

フットサル連盟の現状と展望

一般社団法人北海道フットサル連盟　専務理事　荒川　浩幸

下記の一覧表の事業が、（一社）北海道フットサル連盟（以下、「HFF」という）の取り組む年間の事業です。大別すると、（公財）北海道サッカー協会との共同開催事業と連盟単独での主催事業となります。HFF 主催事業では、育成年代でのリーグ及びフェスティバル、地区選抜大会、羊ヶ丘病院様による冠大会、各年代での選抜チーム編成・活動・道外遠征、大会出場が挙げられます。

第 3 回目を迎える北海道エスクエラプログラムの財源は、（独立行政法人）日本スポーツ振興センターが実施している地域スポーツ環境整備事業のうちスポーツ団体スポーツ活動助成制度であり、その助成金を基に事業を推進しています。この事業は、札幌地区のほか、釧路・十勝・室蘭の各地区での実施も継続されています。申請から助成金確定までには多くの事務作業が必要で、新たに事務局体制を構築し取り組んでおります。

また、限られた財源の中で活動費を捻出し各年代（一般男女、大学、U-18）の選抜チームを編成し、トレーニングの実施、そして北海道選抜として全国選抜大会に参加しています。

以上のように様々な事業を推進する上で必要なリソースが慢性的に不足していることが大きな課題であり、これを解決していく事が今後のフットサル競技の展望へのカギとなることは明らかです。ついては、全道の仲間たちと知恵を絞りこの課題を解決していきたいと強く思っているところです。

2025年度 北海道フットサル連盟事業計画(案)

連盟主催事業	HKFAとの共同開催事業
第12回会長杯U-18フットサルリーグ	JFA第31回全日本フットサル選手権大会 北海道予選(ベスト8)
第3回北海道フットサル エスクエラ プログラム(リーグ、フェスティバル・クリニック)	JFA第31回全日本フットサル選手権大会 北海道代表決定戦
第16回全道地区選抜フットサル大会	第25回北海道女子フットサル大会兼JFA第22回全日本女子フットサル選手権大会北海道代表決定戦
第2回全道地区U-15選抜フットサル大会	第20回全道大学フットサル大会兼第21回全日本大学フットサル大会北海道代表決定戦
第11回羊ヶ丘病院杯フットサル大会2024(エンジョイレディース・ガールズ・O-40の部)	第37回全道U-15フットサル選手権大会兼JFA第12回全日本U-18フットサル大会北海道予選
第10回羊ヶ丘病院杯フットサル大会2025(U-12の部)	2025年度 第37回全道U-15フットサル選手権大会　ブロック予選(5ブロック)
北海道フットサル選抜事業	第37回全道U-15フットサル選手権大会兼JFA第31回全日本U-15フットサル大会北海道代表決定戦
第41回全国選抜フットサル大会	第17回全道U-15女子フットサル選手権大会兼JFA第16回全日本U-15女子フットサル大会北海道代表決定戦
日本トリムPresents　第17回全国女子選抜フットサル大会(トリムカップ2025)	第35回全日本U-12フットサル選手権大会北海道代表決定戦　ブロック大会(5ブロック)
和歌山オープン 第2回 全国U-18選抜フットサル大会	JFAバーモントカップ第35回全日本U-12フットサル選手権大会北海道代表決定戦
FUTSAL KOBE FESTA 2026 U-18 女子フットサル選抜トーナメント	全道フットサル選手権大会2026　一般の部
2026 第8回大学フットサル地域選抜交流大会	全道フットサル選手権大会2026　女子の部
HKFAとの共同開催事業	全道フットサル選手権大会2026　U-14の部
第26回北海道フットサルリーグ2025	全道フットサル選手権大会2026　U-12の部
第14回北海道フットサルリーグカップ	全道フットサル選手権大会2025　U-12女子の部
2025年度第15回北海道女子フットサルリーグ1部、2部	第14回全道シニアフットサルオープン大会
LUXPERRIOR CUP 第21回 北海道地域大学フットサルリーグ2025-2026	第2回U-8・U-10フットサルリーグチャンピオンズカップ2026
北海道フットサルリーグ第9回ブロックリーグ(札幌道央、道北、道南、道東)	第21回全道自治体職員フットサル大会　北ブロック
北海道フットサルリーグ2024　第9回ブロックリーグ決勝大会	第21回全道自治体職員フットサル大会　南ブロック
北海道フットサルリーグ入替戦	

【北海道チャレンジドサッカー連盟】

連盟の現状と今後

北海道チャレンジドサッカー連盟　会長　佐橋　正智

北海道ハンディキャップサッカー連盟として設立したのが 2002 年2月、知的障がい・発達障がいの方たちに、サッカーを通して希望をもち、楽しさを享受し、障がいの改善等に寄与することを目指して活動を継続しています。ボール一つで活動できるサッカーの魅力を味わい、コミュニケーションを図りながら社会参加することを活動の理念とし、それぞれの障がいの状況に応じて、サッカーをしたいという気持ちに応じた環境の整備に努めています。

＜2024 年度の活動＞

主要4大会（11 人制・高等養護学校・8人制・フットサル）を中心に、普及を目的に小中学生を対象としたジュニア交流会や高校生以上を対象としたフェスティバルを開催しました。特にジュニア交流会では、サッカーに取り組んだことのない子どもも参加し、急造のチームを組み、連盟推薦として大会に参加しました。ほかにも、女子サッカー教室と高等支援学校のフットサル交流大会を新設し、普及と拡大に努めています。また、旭川地区では夏と冬にサッカー教室を開催し、札幌地区サッカー協会主催の交流大会にも参加しました。主要な大会の多くでは、勝利を目指すフリークラスと楽しむことを目的としたフレンドリークラスに分かれて競技を実施しています。近年、フレンドリークラスで優勝を目指す傾向が強くなり、改善策として抽選で分かれたブロック毎のリーグ戦のみを実施することとし、勝利を主たる目的とせず改めてサッカーをより楽しむための大会参加という原点に立ち返る工夫をしました。

＜インクルーシブサッカーの取組＞

昨年 11 月には、当連盟が主管となり北海道インクルーシブフットボールフェスタを実施しました。障がいの種別や有無にかかわらずサッカーを通じて誰もがスポーツの楽しさを享受することが主なねらいです。道内で活動している各障がい種のサッカー団体が集まり、昨年に引き続きウォーキングフットボールを全員で楽しんだあと、北海道ろう者サッカー協会の協力を得て、ろう者サッカーの実際を全員で体験するなどしました。ちなみに昨年は CP サッカーの体験をしています。今年度も 2 月につどーむで実施予定です。

＜今後の課題・展望＞

ここ数年の課題は、チャレンジドサッカーに取り組むサッカー人口の減少です。それにい、予算面も大変厳しくなっています。遠方からの参加者や全国大会等への派遣補助など、できない状況が続いています。普及と拡大の取組の成果を定着させるためにも、運営面の厳しさを乗り越え、日常の大会や教室等を充実させて、気持ちが向いたときにいつでもサッカーができる環境を整えていきたいと思っています。

【北海道ビーチサッカー連盟】

ビーチサッカーの活動と展望

北海道ビーチサッカー連盟　理事長　荒川　浩幸

先般、2025 年度第 1 回理事会において任期満了に伴う役員改選において、前理事長の溝口昇氏より理事長職を引き継ぎました、荒川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

北海道のビーチスポーツ全般に言えることですが、気候温暖化とはいえ北海道の夏はあまりにも短く競技を広めていくにも頻繁に大会を実施できるほど環境が整っているとは言い難いのが現状です。

ですが、我々連盟役員、参加チームもこの競技の魅力を知りお互いに協力し合い継続して事業を行っております。

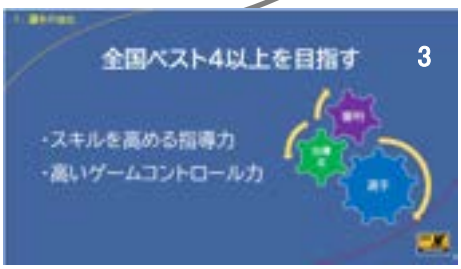
昨年度は、7 月 14 日室蘭市イタンキ浜での第 19 回全道ビーチサッカー大会を皮切りに（優勝は旭川実業高等学校）北海道ビーチサッカーリーグを8月 18 日と 9 月 8 日の 2 節を石狩あそび一ちで行い（優勝は FC. VLEA）リーグ戦の前日には、現役日本代表の奥山選手に来ていただきアンダーカテゴリーのクリニック、フェスティバルを開催、両日には 14 チームの皆さんに参加いただき、ビーチサッカーの魅力を伝授してもらいました。手前みそになりますが、初めてリーグに出場したチームもクリニックに参加してもらった子供たちにもビーチサッカーの楽しさをわかってもらったと自負しています。

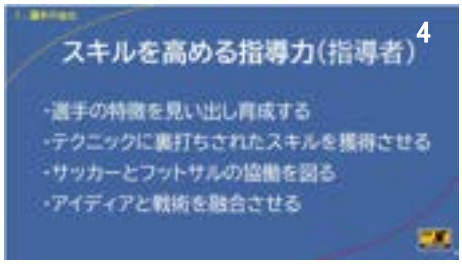
しかしながら、北海道の短い夏にこの競技を普及していくためには、絶対必要なものがあります、それは常設ピッチです。この課題は正直解決の糸口さえ掴んでいない状況が続いていますが、あきらめることなく夢と希望を持ってこの課題にチャレンジし続けます。

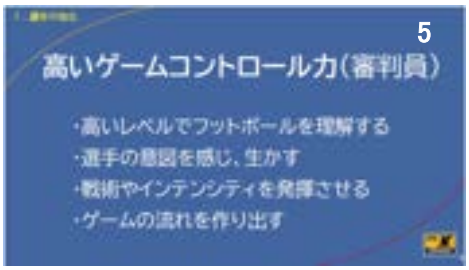
今年も短く熱い夏がやってくるぞ！

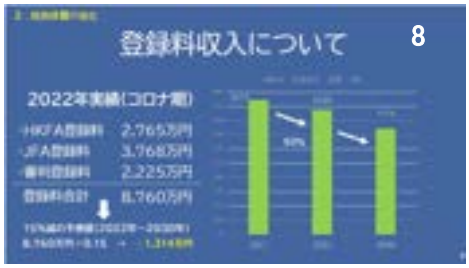
各種大会の開催要項は WEB で！

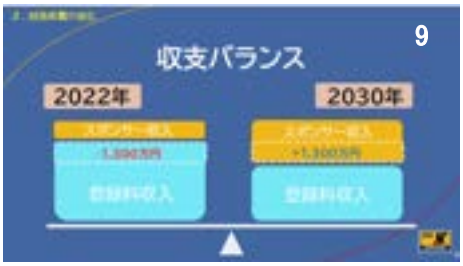
北海道サッカー協会は、協会の描く姿を
サッカーファミリーの皆様と共有するため、
HKFA中期ビジョンを制定いたしました

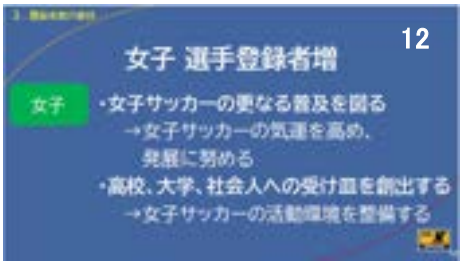


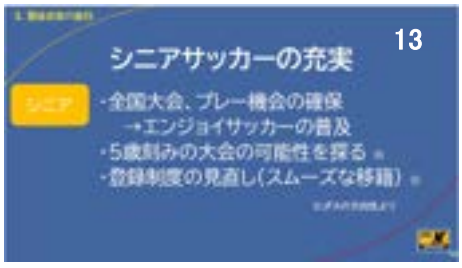


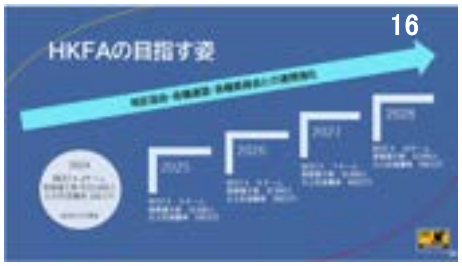












(公財)北海道サッカー協会HPでも公開してます